

第一日目の午後、講義が一段落ついてやや疲労もたまってきたところにミニグループディスカッション 1 が始まった。いままでの聞いているだけの講義とは違い、10人程度で同年代の今までまったく話をしたことの無い人とのグループで、トラブルのあった 1 症例について検討した。

チューターは豊橋ハートセンターの松原徹夫先生。症例は、右冠動脈 PCI 試行後約 1 週後に心タンポナーデで搬送された症例であった。症例のフィルムを見つつ、その際のデータを確認しながら、参加者みんなで検討を行った。今回検討した症例は比較的血管径の太い病変に対してステント留置を行ったため、24atm と高圧で後拡張を行っていた。そのため、心タンポナーデの原因は高圧拡張のほうばかり注目してしまっていたが、結果はワイヤー先端部による血管の穿孔で、その映像がフィルムの中に納まっていた。普段は多方向から、いろんな視点から日常診療をするよう心がけていたつもりであるが、やはりいろいろなバイアスが原因で真実を見過ごしてしまう可能性がある点を改めて痛感した。その後、各グループの代表が全体発表を行い、さまざまな症例の問題点を検討した。当グループは代表に選ばれた大城先生が全体発表を行った。検討と同時にさまざまな症例のトラブルケースを知ることができ、普段は隠蔽されている（たとえば大袈裟ですが）症例の問題点を改めて実感できる非常に有意義な検討会であった。

気分は学生の頃に帰ったようであり、一日の締めとしてふさわしい討論会であったと感じた。